

天見小校長室だより 7月号

人の温かみを感じられる学校 みんなで笑顔と元気を作り出せる学校

プール掃除で心温まる！！？

天見小学校では毎年、心が温まる恒例行事があります。

それは何かというと、プール掃除の時間です。その日は天見小学校を卒業した中学生が3人職業体験に来ていました。なので、今年は、4年生～6年生と中学生と教員でプールを掃除しました。毎年、4年生は更衣室や倉庫の中を、5年生はプールサイドを、6年生はプールの中を掃除します。いくら小さなプールといえど天見小学校は子どもたちの人数が少ないので、なかなかプール掃除は大変です。でも、今年も気持ちが、温まるプール掃除の場面を見て、嬉しさを感じずにはられませんでした。



毎日の無言掃除の習慣が見についている子どもたちは、自分が何をしに来たかをちゃんと分かってプールに来ていました。「自分たちがこのプールをきれいにしないと、みんながプールに入れず困ってしまう。」担任の先生もしっかり話してくれたのだと思います。

どの学年の子どもたちも自分の掃除の持ち場を黙々と一生懸命にきれいに掃除してくれました・・・私は、毎年、その様子に感心させられます。プールはみるみるきれいになっていきました。ふと見ると、中学生たちも小学生と一緒に黙々と掃除してくれていました。中学生には「明日はプール掃除があるよ。」としか伝えていないと教頭先生はおっしゃっていました。だけど、ちゃんと掃除ができるサンダルや体操服を用意して、小学生のお手本になるような素晴らしい行動を見せてくれていました。

やがて下校時刻が近づき、1年生～3年生が学校を帰っていきます。その時に、「きれいに掃除してくれてありがとう。」と皆が大きな声で感謝の気持ちを伝えていってくれるのです・・・それが、高学年の頑張りポイントになっているようにも思いました。「上級生は下級生のために動き、下級生は上級生の優しさに気付く・・・。」そして、中学生を見ると、自分たちの次となるステージの中学生がとる立派な姿を見せてくれている・・・それを毎年、肌で感じられる天見小学校の子どもたちの心が育たないわけがありません。

きっと1年生は2・3年生のように大きな声で、「ありがとう。」を言おうと思ったでしょう。3年生は、来年は僕たちが頑張る番だと思ってくれたでしょう。そして4・5年生は、6年生を良いお手本にした行動をとってくれることでしょう。

「あんな中学生になりたいな。」6年生は感じたことでしょう。

自分の行動が人の役に立つ喜び、それを素直に喜んでくれる下級生、頑張ってよかったと思える力が自然と育っている天見小学校の伝統は素晴らしいと思います。



子どもたちに、伝えたいこと

毎週、縦割り活動や音楽朝会などの有意義な活動をしている

児童朝会の時間ですが、隙間あらば、「校長先生からお話しする時間をちょうだい。」とお願いしています。校長として子どもたちに伝えたいことを話せる機会は、児童朝会の場が多いからです。6月に話した内容はお家の皆さまとも共有しておきたいと思い、今回は「児童朝会の校長先生のお話し」をテーマにして校長室だよりを書こうと思います。

「いじめの傷って？」 6月5日の児童朝会に

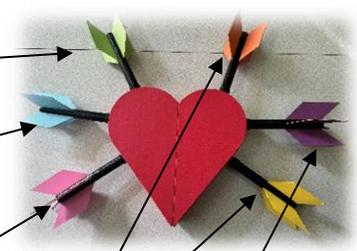
天見小の子どもたちは優しいので、辛辣ないじめはないように思いますが、大きないじめがない今だからこそ、「いじめを受けた後の傷」についてちゃんと話しておきたいと思ってお話ししました。以下はその時のお話しの内容です。

略・・・けがをしたら、血が出たりして、じんじん痛いですが、やがてかさぶたになって治っていきますね。

では、心に受けた傷はどうでしょう。

これはAさんの心です。ある日、Aさんはいじめにあいました。

- ①この矢は、「失敗しよった。おもしろ・・・」
...失敗や、人と違うことを笑ったりするからかい
- ②この矢は、「ねえねえ、〇〇ちゃんと話すの、もうやめへん？」
「無視しよ。」
...その人が来たら急におしゃべりするのをやめて「逃げる。」「独りぼっちにする。」無視や仲間外し。
- ③この矢は、遊ぶふりをして「たたいたり蹴ったり」する暴力
- ④この矢は、「やめてや。」「やめてや。」「先生に言うで。」「先生に言うで。」
...しゃべり方や動き方を真似したり、人をバカにしたりする、からかい
- ⑤この矢は、「死ね。」「よわむし」「かわい子ぶってる」「きしよい」...言葉の暴力
- ⑥この矢は、「あんたのこと、〇〇ちゃんが、嫌いって言うてたで。」
...言わなくてもいい、いらぬおせっかい



悪口を言われて、からかわれて、仲間外れにされて、「嬉しいわ。」って思う人はいませんね。言っている人は、何気ない気持ちで言った言葉かもしれません。でも、言われた人にとってはどうでしょう。このA子さんの心のように、たくさんの矢の傷が刺さって、めっちゃくちゃ傷つくのではないかと思うのです。

心が壊れてしまう前に、いじめの矢を抜かないといけません。でも、いじめの矢は、いじめられている本人は抜くことができないのです。

では、どうやったら、いじめの矢は抜けるのでしょうか？それは、周りの人の優しさでしか、抜けないのです。





周りの人が、いじめている人に「そんなことをやったらあかんで。」「一人ぼっちにするのは良くないよ。」と教えてあげる、いじめられた人には、「僕と一緒に居ればいいよ。」「大丈夫だよ。私がついているよ。」「心配ないよ。」と、声をかけてあげたり、「味方だからね。」と励ましてくれる人がいたりすると、矢は一本ずつ抜けていきますね。

そして、いじめをした人が反省をして、心から「ごめんなさい。もう二度としない。」と謝ってくれたら、「許そうかな。」友だちをまた信用できるようになります。

みんなで、「人の心を傷つけることをしたらだめなんだよ。」と、言い合うことで、いじめをやめさせることができます。もし、自分の周りにいじめの矢が刺さっている友だちがいたら、声をかけ励ましてあげることで、いじめの矢を抜いてあげてください。

さあ、全部の矢を抜くことができました。元どおり、きれいなハートに戻ったよね。本当に戻ったのかな？

もう一度、この心を見てください。実はもとには戻っていないのです。矢が刺さっていた後を見てください。矢が刺さっていた後の穴が残っているのがみえますか。全部矢を抜いても、いじめの跡は、残ってしまうのです。その傷はなかなか消えません。10年たっても、20年たっても忘れることはできない傷もあります。だから、いじめは絶対になくさなくてはいけないのです。



もう4年ほど前の話になるでしょうか。「お前なんか、死ね。」

SNSに、匿名で言われた人の気持ちも考えられないでこの言葉をネットで何回も送った人がいました。そしてそれを被せるように何人もの人が同じ言葉を送った人もたくさんいました。みなさんなら、自分が知らないたくさんの人から「お前なんか死ね。」「きしょいねん。」

「もうしゃべらん」「さわんな」等と言われたらどんな思いがするでしょう。言った本人は相手が傷ついているかもわからないでいました。

でも「お前なんか死ね。」その言葉をSNSでたくさん言われたその人は、傷ついて傷ついて、「自分はいなくてもいい存在なんだ。」と思い込んで、命を本当になくしてしまったのです。その子のお母さんはどれだけ泣いたでしょう。先生がその子のお母さんだったら、泣いても泣いても耐えられません。だって、死んでしまったら、かわいい我が子ともう二度と会えなくなってしまうのだから。

このニュースを見たとき、「なんでそんなこと、簡単に言えるんだろう。」「どうして、いじめられている人を誰も助けようとしらないの?」「そんなことして、人が悲しんでいるのを見て楽しいのですか。」ものすごく腹が立ってきました。心がものすごく痛くなりました。

自分がその人をいじめたことで、その子が死んでしまったら? どうする? それでも平気でいられますか。どんなに謝ったって、どんなに泣いたって、なくなってしまった人は、元に戻って来ないのです。

だから、みんなには、傷ついて悲しんでいる人にも、人を傷つけて平気な人にも、どっちにもなってほしくないと思っています。せめて、友だちを傷つけてしまったとわかったときは、自分から心から謝れる子になってほしいと思います。周りの子はいじめられている子を助けてあげてほしいと思います。そうすることで、いじめはなくなっていくのです。



天見小学校では、ハッピープロジェクトや他の人のがんばりにお手紙を書くという取り組みがたくさんあります。先日も1年生が、6年生の教室に、「てくてくテーリングに連れていって来てありがとう。」を伝えに行っているのに出会いました。ハッピープロジェクトでは「みんなのがんばっていたところ」をたくさん見つけてくれていて

とてもうれしかったのでそれを紹介して終わりたいと思います。

○班のみんなが目標を決めるときにたくさんの意見を出してくれてよかった。班のみんなは「つかれた」と言っていたけれど歩いてくれてよかった。

○1年生は初めてのてくてくテーリングだったけれど、「楽しかった。」と書いてくれて嬉しかったです。

○班長さんが休憩をする時間をとってくれたりお茶を飲む時間をとってくれたりして嬉しかったです。

○5・6年生が2年生のリュックを持ってあげて優しいなと思った。

○低学年が疲れていたなら5年生が背中を押してくれたり、みんな協力して手をつないだり荷物を持ってあげていたりして低学年も「楽しかった」と言っていて素敵だなと思いました。

○班長と副班長が自分のことより、みんなのことを優先していてすごかったです。

○皆がしっかりと地域の人にあいさつをしていて礼儀正しいな と思いました。

○班長が下級生が遅れていると、待ってあげたり疲れていると、「大丈夫?」と優しく接していてすごいと思った。

他にもたくさん。これだけの天見小学校の友達の頑張っていることや良いところをたくさん見つけ、さすが、校長先生が自慢できる天見小学校のみなさんだなと思いました。ものすごくうれしかったし、心があたたかくなりました。

人の悪口は簡単に言えるけれど、相手はこのハートのように傷がついてしまいます。でも人の良いところを見つけてこうして伝え合えたら、最高にあたたかい気持ちになりますよね。天見小学校のみんなは、人が傷つくような言葉をかける人の方が少なく、人が頑張っているところを見つけれたり、人の良いところを伝えられたりできる子たちばかりと先生は思っています。

このハートのように人を傷つけるために言葉はあるのではなく人の心をほんわか温かい気持ちにできるように、言葉があることをいつも覚えていてください。これで校長先生の話が終わります。